
UNLIMITED STARS

ゴクト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

UNLIMITED STARS

【作者名】

ゴクト

N1817J

【あらすじ】

君達は思つてないか？こんな事があればと、世界觀の違つゲームのキャラや、あらゆるもしもを……

これはそのもしもが、現実になつてしまつ、そういう作品である

2009・12・28(前書き)

注意！

本作は、あらゆるゲームなどのクロスオーバーをしております
キャラなどに原作崩壊などがある可能性も高いです

見るなら、最後まで見て下さい。

万が一こっちのイメージが強くなつても私めは責任を一切取りません

それでも、見ますか？

『はい』　　いいえ

2009・12・28

人は、必ず脳に創造する能力を持つている

文化、機械、料理、富、未来、芸術、天地、そして妄想

もしもあれがこうなり、コレがそうなつたら……

あれがもし生きていたら……

俺だったらあれをこうして……

そんな妄想が私達の脳に存在している

ではもし、それが現実の物となつたら?

悔いいるだろうか?

歓喜するだろうか?

この物語は、ある一つのきっかけで起つた、二次創作と言つたの

妄想

そして戦記である

2009年12月28日
「場所不明」

「架空と現実の世界を一つにですか？」

男性は、ピンク色したボニー・テールの女性にそう呟いた

女性の体型は、一言い表すとナイスバディで、背は少しだけ低

いが、キュートな顔付きと笑顔が、背の低さを補つべりて愛くるしい……

「そう、一見ただの夢話見たいだけ……」この計画は今拡大しているあの勢力に対抗できる唯一の手段なの」
その彼女が、一つのカードのような物を取り出すと、眼前で起きている光景をみて男にそう言った

眼前では、戦争が起こっている
しかも、こちら側が不利な状態で

「あの勢力……『エグザミナ』の事ですか？」
「ええ……実際、今の人達ってゲームや漫画のクロスオーバーとかつてやつてるでしょ？アタシはそれを現実も混ぜて、一つの世界を作るので、そしてその世界の創造が……」

男の問いに、彼女はその場でくるんっと回り、男に向き直ると

「アタシの『女神』としての最初の仕事なんだから」とウインクをして言った

「ですが、一応言つておきます、貴方はアルムレッテ家の跡取りだ」と言つことを

「分かつてゐるわよ、どうせアルムレッテはアタシしかいないんだしことも時期にお別れになるわ……」

彼女は胸に拳を置き、その拳をにぎりしめた

「…………もう行くね。アタシ」
「…………リミ様、どうかご無事で」

彼女、リミは真剣な表情を男に見せて、横にある扉に入つて行つた

「女神はここか！」

「…………つ！」

彼女が入つたと同時に、別の部屋から入つて来たマントを羽織つた青年が、男の胸に剣を刺し、無慈悲にその心臓を貫いた男は血を吐いて、その場で事切れる

「各部隊、探し！女神はこの部屋にいたことは確かだ！」

青年はマントの裏からAK-47を取り出すと、人が隠れる場所を手当たり次第発砲する

「…………いないだと！？」

「隊長、女神のいた痕跡は確かにあるのですが……」

「ですが……何だ？」

青年は険しい表情で部下を睨みながら聞く

「…………女神は既に逃げたようです。しかも、女神は『渡り』をも持つております故、見付けることは限りなくゼロに近いかと……」

「…………ふざけるなああ！」

逆上した青年は、周りにいる部下を一太刀で切り捨てるといつてはいる無線に連絡をした

「エリュード1より、カオスに報告。作戦成功しましたが、女神を

逃がしてしいました……」

『よい、我々エグザミナの第一の目的は、この天界を制圧すること

だ、所詮小娘一人殺したところで……』

「ですが、彼女は仮にも女神です。あまり野放しには出来ませんでしょ！」

『…………分かつた…………では今からお前に指令を言い渡す…………よく

聞くのだ』

「はつ！」

「さて…………まずは初仕事と行きますか…………」

リミは、何も無い更地の地に立つた巨大な塔の上から景色を見渡しながらそう呟くと、空に手を翳し、数多の世界の様子を眺めた

その様子の中から、リミはある三つの世界に目を付けた

リミはまず、右の世界を見た

その映像には、女の子のような顔付きをしたアサルトベストを着た男の子が、巨大な犬を倒している姿が映っていた

「この子は、中々の腕前ね。しかも、『宝探し屋』だなんて…………次は真ん中ね」

次にリミは真ん中の世界を見る

その映像には、一人の刺々しい青年が、不気味な人物に勝負を挑み、呆氣なく負けている姿が映つていた

「あちやー、不様だなあ…………仮にも『死の恐怖』って言われてるやKK?さて、最後は左ね…………」

最後にリミは、左の世界の映像を見た

その映像には、赤毛の青年が一人の女性と戦つて、予測できなかつた自体に発展した様子が映つていた

その時であった、リミは目を光らせて立ち上がり、目を閉じて何かの言葉を唱えはじめた……

「エフアリルティ・エフェリクチュア・オルメテュス・ガ・マルフ
アリエ……無数の可能性よ……鎖となりて今、紡げ」

言葉を唱え終えたりミが目を開くと、三つの世界に異変が起こった

光に包まれて消えたのである

リミは踵を返して塔の中へ入って行つた

彼女は一体何をしたのか、それはわからない。しかし、わかることが一つだけある

これは大規模な戦いの始まりなんだと

12・30 場所不明（ヒロアアンノウン）

2009・12・30

「場所不明」

「う……うーん、アレ? ここはどこだ? 僕は確か、エジプトの遺跡の中で、アヌビスと戦つて……それから何か変な光に包まれて……そうだ! サラーさんは?」

男子は、見知らぬ海岸で田を覚まし、周りを見渡した

そのアサルトベストを着た男子は女子のような顔付きをしていて、額には暗視ゴーグルを乗せており、そして右手にはナイフを、左手には拳銃デザートイーグルを持っていて、男子はそれをポケットにしまつと、何かを見付けたのか、そこに駆けて行つた

「サラ一さん!」

男子は、花畠の真ん中で倒れている彼がサラ一と言つた老人を見付けて、そこに駆け寄る

「……おお……九龍君、無事だったのだな……」

「サラ一さん、呑気な事を言つてる場合ですか! 周りを見てください!」

九龍と呼ばれた男子は、サラ一にそう言つと、サラ一は周りを見渡して仰天した

「何と、一体「リサビリジヤ・レリッシュドーン」の奴らは、ましてや、
「リサエジプトなのか？」

「……見るかぎりではエジプトでは無いと思ひます。とにかく、今は
はここを出ましょ！」

九龍とサラーは立ち上がり、海岸沿いを歩きださうとした

その時であった

『……新たな熱源反応を確認』

「熱源反応！？あの茂みからか！」

九龍は小型のパソコン『H・A・N・T』を取り出してその位置を
確認すると、ホルスターからデザートイーグルを取り出し、ポケッ
トからパチンコを取り出す

そして彼は足元に落ちていた木の実を拾い、それを反応のあつた方
に飛ばした

地雷の可能性も高い

そう考えた九龍は、罠を確認する為に木の実を飛ばしたのだ

しかし、茂みの中から出て来たのは、九龍が見たことも無いモノだ
った

「……何だ、この変な生き物は？」

九龍は田の前の飛びはねる生物に思わず氣を緩めてしまい、銃を降
ろす

しかし、その飛びはねる生物は、容赦なく九龍の顔面に体当たりを

かまし、後ろの尻尾みたいな何かで顔をピチピチはたく

「あばばばばばばばー！」

唐突の出来事なので、彼は成す術もなく顔を左右に振り回される

「あばばばばばーばあー！」

九龍は、右手の「デザートイーグル」を、生物の横に突き立てて、三発発砲した

デザートイーグルの弾を受けた生物は、その場に落下して事切れた

「はあ……はあ……何だよ「イツ」

両頬をふつくり腫らしながら、九龍は「デザートイーグル」をホルスターに戻してそう言った

「…………っ！九龍君、さつきの茂みを見てみなさい」

サラ一は、突然そんな事を言い出す

九龍は、サラ一の言つた通りに先程の茂みを見てみると、そこには扉のような何かがあつた

「う…………嘘…………さつきまでそこに何も無かつたのに？」

「儂にも分からん、さつきから唐突過ぎることばかりで、気が狂つてしまいそうじゃわい」

「…………もしかして、この扉はエジプトに続いてるのかも知れませんよ。多分、ロゼッタの救援なのかも知れません」

九龍は、扉を調べてみる

万が一これが罠であつたら、多分この先には仕掛け天井や毒ガスのトラップがあるかもしない

九龍は恐る恐る扉を開けて、扉の隙間から閃光手榴弾を投げる

それから彼は、すばやく扉を閉めて、耳を塞ぐ

すると、扉越しに爆音と光が漏れだし、さらに誰かの悲鳴が聞こえ

た……悲鳴？

「……えつ？」

九龍はサラ一の腕を掴み、勢いよく扉を開けて中に入ると、そこにはピンク色の髪をした女の子が気を失つて倒れていたのだ

「……あはははは、や……やつちやつた」

さうに、九龍は田の前に赤い髪のお坊ちゃん印象がある男の子と、色っぽい女人が、こちらを睨んでいるのを感じ、額に汗を流した

……

これが彼、「葉佩九龍」とリミ

そしてこれから始まる戦いの仲間達との出会いである……

13

一方その頃、『三人目』の人物は……

「でやあああああ！」

「ぐわあ！」

ヘソの出でいる黒い服を着た白い髪の青年は、武装をしている敵に追われながらも、必死に元いた場所に戻りつとしていた……

しかし、その話は次の機会に

（ 、 、 ） ノシューんにちは、 「クトです

アイマスSPの小説が連載中のなか、今日はプロジェクト じくすの真の部分、あらゆる物のクロスオーバーと言つ形でこの小説を書かせて貰つてます

今日はキャラに関する諸注意を言いに来ました

その諸注意とは、リミに關してです

実は彼女は、現在連載中の「三人の道」でも奥村利美（あだ名もりみ）として参加していますが、設定上アイマスの方では全くの別人です

まあ、このアンリミとアイマスでの自分の小説でのクロスオーバーも、やるにはやるんですが……

一応言つておきます

覚悟してください

1・23 【集結】（前書き）

リミ・アルムレッテ
(アンリミオリジナル)

年齢 18

身長 157.8

体重 53.4

胸（笑） 92

本作の主人公の一人で架空と現実の世界を一つにした張本人
一見自由奔放な性格に見えるが、女神という任を任せられている故に、
责任感は強い

「はあ……はあ……」

「いたぞ！ あそこだ！」

飛ばされた先はエジプトだつた……

志乃を取り戻すために、俺は「ヤツ」に戦いを挑み……呆気なくやられてしまった

しかも、田を覚まし外見を見ると、俺はレベル1に戻されていて……しかも……

「捕まえろー捕まえてボスの元に突き出してやるんだ！」

目覚めた場所はリアルで、しかも武装したヤツらに追われるハメだ

くそ……何て様だ……

「とにかく、今は逃げるしかねえ。どこか隠れる場所は……あつた！」

俺は近くに置いてある大きめなダンボール箱を見つけ、急いでその中に入った

「……」

息を殺して変な奴らに見付からぬようじつとそのダンボールの中で隠れないと……何やら悲鳴が聞こえた

しかも三人だ

俺はダンボールの僅かな隙間から外を覗いてみると、そこには黒い服を着た赤い髪の男が立っていた

見た感じ「The World」のプレイヤーでもNPCでもないしかも、リアルにあんな服を着て、しかも剣何か持ってるヤツなんているわけがない……

俺は、その囮まれている男を見ていた……

男は、銃を持ったヤツ相手に剣なんかで立ち向かった

ヤツらは銃を発砲するが、男には全く当たらない。

避けてやがる、それも弾丸を……

「伏せろおー！」

男はいきなりそう言い、俺は咄嗟に追つ手にバレるのを覚悟して伏せる

瞬間、俺の入っていたダンボール箱の上部が、一瞬で舞い上がつて

いつた

俺は顔を少しだけ上げる、すると……

「つーうわあああああ！！」

俺の目の前には追っ手の頭を抱えている胴体しかないモノや首が無いモノ、さらには腹を捌かれて内臓をぶち撒けているモノがあり、その眼前には、赤い髪の男が返り血を浴びる事なく立っていた

「……行け」

ソイツは、俺の前で剣先を右に向ける

「……アンタは？」

「俺はコイツらを始末する。急げ、でないとまた奴らが来る」
ソイツが顎で見てみると凹凸をすると、俺はとんでもない物を見てしまった

戦車である

その戦車は、間違いなくこちらに近づいている

「お前はどうすんだ？ アレを一人で片付けるのか？」

俺はソイツに質問すると、ソイツは俺の胸倉を掴んで

「早く行けってんだろ肩が！」

そつぬうと、ソイツは俺を先程指差した方向に投げ、再び顎で今度は「行け」と合図した

「……アンタ、名前は？」

俺は唐突にソイツに名前を聞いてみた

「……何のつもりだ？」

「いや、せめてアンタの名前だけでも知りたくてな、教えてくれないか？」

「……」

ソイツは、俺に背を向けながら……

「……アッシュだ」

つと呟いた

「アッシュ……だな、その名前覚えておく」

俺はソイツ……アッシュの名前を聞いた後、一目散にアイツの走つた道を走つていった

「……ケツ、てめえは名乗らないのかよ」

アッシュは、そう呟くと剣を再び抜き、数多の戦車に突つ込んで行つた……

「こんなところに扉があつたとはな……」

「俺はアッシュがいる場所から少し離れた所まで走り、この扉を見付けた

「今は躊躇つてる場合じゃねえ、またヤツらが来るかも知れないからな……一か八かこの扉の中に……ダーウー！」

俺は扉にぶち当たるように乱暴に扉を開ける。すると、その扉の先には……

「 もう もー 」

パンツ一枚の女の子が目の前にいたのだ

11

俺は、頭の中が真っ白になつた

三爪痕に返り討ちにされ

The Worldのデータは全て初期化されたあげくエジプトにいて

そこで変な奴らに追われる嵌めになつて

最後に

災難だ……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1817j/>

UNLIMITED STARS

2010年10月15日21時39分発行